

エッセー

大学におけるスポーツ教育の可能性 ～スポーツ種目のバリエーションの観点から～

コミュニティ福祉学部教授 安松 幹展

現代人のウエルネスの向上に寄与するとともに、すべての人が心身ともに楽しく健康に生活できるウエルネス社会の構築を目指して創設された、コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科は昨年創立 10 周年を迎えた。そこで、ここ 10 年での全学共通科目で展開してきたスポーツ種目の変遷から、大学におけるスポーツ教育の可能性と課題について考えてみたい。

全学共通科目におけるスポーツウエルネス教育は、リベラルアーツ教育に根ざした「心身の教養」と「ライフスタイルに応じたスポーツウエルネス実践能力」の獲得を目的としている。立教大学のスポーツ教育の特徴は、従来の競技系やレクリエーション系の種目のみならず、健康を増進するための科学的知識の獲得と実践を目的とした「スポーツプログラム (SP : 1 単位)」に加えて、それぞれの系において理論と実践を統合した演習科目として「スポーツスタディ (SS : 2 単位)」を展開していることである。表 1 は 2008-09 年度と 2018-19 年度の各科目の開講スポーツ種目である。網かけした種目は、それぞれ廃止されたものと新規創設されたものを表している。この 10 年の変化としては、SS では個人スポーツ種目 (太

表 1. 2008-09 年度と 2018-19 年度の展開スポーツ種目の変遷

科目名	系	2008-09年度	2018-19年度
スポーツスタディ	レクリエーション系	女性とウエルネス	
		マリンスポーツ	
		アダプテッドスポーツ	アダプテッドスポーツ
		東洋的フィットネス	東洋的フィットネス
		レクリエーションalsスポーツ	レクリエーションalsスポーツ
		ネイチャーキャンプ	ネイチャーキャンプ
		馬術	馬術
		スキー	スキー
		ゴルフ	ゴルフ
			太極拳
		長拳	
	トレーニング系	ウエイトトレーニング	トレーニング
		コンディショニング	ボディコンディショニング
		セルフケア・エクササイズ	セルフケア・エクササイズ
		ボディシェイプ	ボディシェイフ
		ダイエットフィットネス	ダイエットフィットネス
			ウォーター・エクササイズ
	球技系		はじめての柔道
			はじめてのマラソン
		バドミントン	
ボールゲーム			
テニス		テニス	
フットサル		フットサル	
スポーツプログラム	レクリエーション系	サッカー	サッカー
		卓球	卓球
	トレーニング系	太極拳	
		インラインスケート	インラインスケート
		ピラティス	
		はじめてのバレエ	はじめてのバレエ
	球技系		クライミング
			トレーニング (初級)
		サッカー	
		テニス	テニス
バレーボール		バレーボール	
		卓球	
	バスケットボール		
	フロアボール		
	フラッグフットボール		
	アルティメット		
	バドミントン		
	ソフトボール		

極拳・水泳・マラソンなど)が、SPでは逆に団体球技スポーツ種目(フラグフットボール・アルティメット・ソフトボールなど)が新たに加わっている。スポーツ庁が小中学生を対象として行っている平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果によると(スポーツ庁、2018)、体力テストの結果が全体の下位30%に属している児童生徒でも、一つでも得意な体力テスト項目を身に付けることがあれば、運動やスポーツに親しみ、体力の向上につながる事が報告されている。このことは、高校生までの体育が苦手だった学生も、大学で自分に合ったスポーツ種目に出会うことができれば、卒業後も継続的に運動することに興味を持ち続け、生涯にわたるウェルネスの向上に役立つことが期待できる。したがって、現在立教大学で展開している「はじめての〇〇」種目群や、「太極拳」「クライミング」「アルティメット」などの高校まであまり触れたことがない(履修者間でスタートラインが同じ)スポーツ種目を展開することは、大学におけるスポーツ教育の重要な役割であると考えられる。

一方、この10年間での課題として挙げられるのは、池袋キャンパス内にボール・ラッシュ・アスレティック・センター(PRAC)が完成した2013年度以降、履修定員に対する希望者の倍率が2倍近くに増加していることである(表2)。これは、上述した大学でのスポーツ機会の提供を妨げる状況とも捉えられ、早急に改善する必要がある。実際に、スポーツ施設に余裕がある新座キャンパスの開講コマ数を増加するなどして、履修定員を増加させる工夫も施しているが、履修希望者も増加傾向にあるため、適性倍率に改善できていないのが現状である。一方で、現場で授業を担当している先生方からは、履修しているにもかかわらず1回も授業に来ない学生の存在や特に秋学期に登録した4年次生が途中から来なくなるなどの問題が指摘されている。学生たちへのヒアリングでは、友人とともに抽選登録したが自分しか履修できなかったのをやめてしまったことや、運動したくて抽選登録したが単位は足りているので学期途中であきらめてしまったなどの理由が挙げられている。いずれも、履修を強く希望していたのに落選してしまった学生のことを想像できていないことが問題だと思われ、以前行われていたB登録(初回授業に出席し、その場で所定の履修届を記入、担当教員に提出して登録する方式)のように、落選した学生の存在を認識できるような、また、大学スポーツ教育の可能性を無駄にしていないような、履修登録の方法を今後検討していきたいと考えている。

表2. 2012-2018年度の定員、履修希望者、倍率の変遷

年度	定員	履修希望者	倍率
2012	3969	4608	1.16
2013	4278	7778	1.82
2014	4299	8311	1.93
2015	4359	7472	1.71
2016	4559	9088	1.99
2017	4601	8730	1.90
2018	4642	7948	1.71

やすまつ みきのぶ

参考資料

スポーツ庁:「平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について」(<http://www.mext.go.jp/prev_sports/comp/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2018/12/20/1411921_00_gaiyo.pdf>、2019年1月24日取得)。